

貿易自由化が需要・生産構造に与える影響
—CGE および IO モデルによる一考察—*

神戸学院大学 経済学部
伴 ひかり[†]

【報告要旨】

リーマンショックの後、東アジア諸国も輸出に大きな影響を受けた。その1つの要因として、東アジア諸国のアメリカ経済への依存が考えられる。そこで、本稿では、東アジア地域の貿易自由化が需要や生産構造にどのような影響を及ぼすかを、応用一般均衡(CG E)分析と国際産業連関(IO)分析を組み合わせて考察する。

本稿では CGE モデルとして、GTAP モデルを利用する。GTAP モデルでは、財や生産要素価格の伸縮的な変化によりすべての市場が均衡し、また、生産要素間や国内財と輸入財の間での代替が起こる。その意味でやや長いタイムスパンであると考えられる。一方、均衡生産量決定の IO モデルでは、価格一定の下、均衡は財市場のみで、固定係数を仮定し、最終需要は外生である。CGE モデルに比べるとタイムスパンはより短期であると考えられる。このような解釈の下、本稿では、東アジアの貿易自由化のシミュレーションを GTAP モデルと GTAP database Version 7 で行い、シミュレーションの前後のデータに対し IO 分析を行うことによって、貿易自由化によって各国の経済が外的なショックに対する反応がどのように変化するかを分析する。

結果として、東アジアの貿易自由化は輸出入の構造に影響を与え、ある程度需要の分散化をもたらす。しかし、限定的であり、アメリカの最終需要の影響が依然として高いようである。需要を分散させ安定化させるには、東アジア自体での最終需要を増加させる必要性があること推測できる。

キーワード：応用一般均衡分析，国際産業連関分析，GTAP，東アジア FTA，需要構造

*本研究は 2011～2013 年度科学研究費補助金（課題番号：23530254，課題名：国際的生産ネットワークに関する理論的・実証的研究）を受けた。

[†]ban@eb.kobegakuin.ac.jp